経　済　民　生　常　任　委　員　会　記　録

令和2年7月 22 日（水）午前9時 56 分～午前 10 時 23 分（9階 904 会議室）

○出席委員（8名）

委 員 長	二階堂武文
副委員長	佐々木　優
委　　員	高木　直人
委　　員	川又　康彦
委　　員	石山　波恵
委　　員	阿部　　亨
委　　員	小松　良行
委　　員	山岸　　清

○欠席委員（なし）

○市長等部局出席者（なし）

○議　　題

「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」

（１）委員長報告のまとめについて

（２）その他

午前９時56分　　開　　議

（二階堂武文委員長）ただいまから経済民生常任委員会を開催いたします。

古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査を議題といたします。

初めに、委員長報告のまとめについてを議題といたします。

前回の委員会では、委員長報告をまとめるにあたり、全体の構成と提言項目について協議いただきました。その際いろいろ貴重なご意見をいただきましたものを踏まえ、正副委員長手元で委員長報告の骨子案を作成いたしました。

それでは、骨子案につきまして書記より説明をさせます。

（書記）では、骨子案について説明いたします。

お手元の古関裕而を活かしたにぎわいの創出に関する調査（骨子案）という資料を御覧ください。説明は一括で行わせていただきます。お手元の資料ですが、委員長報告の際に読み上げる文章の案文とその文章の基となったこれまでの調査のまとめで構成しております。こちらの案文をつなげたもの

が委員長報告案となります。

まず、委員長報告の書き出しですが、こちらは定型の文となります。

案文を読み上げます。経済民生常任委員会において行いました古関裕而を活かしたにぎわいの創出に関する調査の経過並びに結果につきましてご報告申し上げます。四角で囲ったところが案文になります。

次に、調査の目的ですが、今回の調査内容を議決いただいた際の文言を基に案文を作成いたしました。なお、委員会の回数については確定後に差し替えいたします。

では、案文を読み上げます。本市の名誉市民である古関裕而氏とその妻、金子氏をモデルとした連続テレビ小説、エールが令和２年３月30日より放送開始となり、全国的に古関氏と本市への関心が高まっております。

当委員会では、この状況を追い風として、本市の交流人口の拡大と町なかのにぎわい創出につながる施策が必要であることから、古関裕而を活かしたにぎわいの創出に関する調査を調査項目と決定し、令和元年10月より計〇回の委員会を開催いたしました。

次に、調査の経過です。詳細は記載のとおりですが、今回の調査にあたり実施いたしました現地調査、当局説明、参考人招致、行政視察について記載しております。

案文ですが、３ページになります。案文を読み上げます。この間、市当局から詳細な説明を聴取するとともに、古関氏の功績と古関メロディーを継承するための中核となる古関裕而記念館へ２度にわたり現地調査を実施いたしました。

また、参考人として、本市の音楽文化総合アドバイザーである三浦尚之氏を招致し、古関裕而を生かしたまちづくりの将来像や音楽、芸術を生かしたまちづくりがもたらす効果や魅力などについて聴取いたしました。

さらに、先進地として、音楽によるまちづくりに取り組んでいる静岡県浜松市、ジャズの力で地域活性化に取り組んでいる愛知県岡崎市、連続テレビ小説、半分、青い。放送を生かしたにぎわいの創出に取り組んでいる岐阜県恵那市への行政視察を行うなど、詳細な調査を実施いたしました。

以下、調査の結果についてご報告申し上げます。

次に、調査の内容ですが、まず古関裕而を生かしたまちづくりの現状をシンフォニーによる取組、新型コロナウイルスの影響、エールによる波及効果について記載しております。なお、古関裕而記念館の来館者数につきましては、後日最新の数字に変更を予定しております。

案文ですが、５ページになります。では、案文を読み上げます。初めに、本市が現在取り組んでいる古関裕而を生かしたまちづくりの現状について申し上げます。

現在本市では、令和元年に官民協働で策定した古関裕而氏を生かしたまちづくりの施策案である古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーにより、様々な事業が実施されております。

古関氏に触れ、親しむ取組として、古関裕而記念館の展示リニューアルや古関氏の生涯や功績を紹

介する漫画の小中学生への配付、鼓笛パレードで古関氏の楽曲を使用する試みなどが行われております。

また、古関裕而のまち・ふくしまのまちづくりの取組としては、ポスターやフラッグになどによるシティードレッシングや町なかで古関メロディーが流れる取組が行われております。

さらに、古関レガシーを活かした新たな文化・観光振興の取組としては、ロケツーリズムの推進やエールのロケセット展示やエールラッピングバスの運行などが行われております。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大により、古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーによる取組にも大きな影響を及ぼしております。

当初４月を予定していたエール展の開催や町なか周遊バスの運行開始は６月からとなり、古関裕而記念音楽祭や古関裕而ゆかりのまちサミットについては、現在実施を検討している状況となっております。

そうした影響下においてもエール放送による波及効果は広がりを見せ、今年６月の古関裕而記念館の来館者数は、10名以上の団体での利用を中止しているにもかかわらず、前年同月比149％にあたる5,141人が訪れ、近年では最も多い来館者数を記録しております。

また、団体客の利用を再開した８月以降はバスツアーの予約が相次ぎ、９月だけで約1,800人の来館者が予定されております。今後もしばらくの間は多くの来館者でにぎわうものと予想されます。

次に、参考人招致により提言に関して得られた内容です。

案文は、中ほどになります。案文を読み上げます。次に、参考人招致により提言に関して得られた内容を申し上げます。

三浦参考人からは、エール放送により盛り上がった古関氏や楽曲に対する機運をどのようにしてこの先50年、100年先まで続くまちづくりへとつなげていくかが重要と示されました。

参考人の説明を受け、当委員会としては、音楽や文化を通じて子供たちに夢や希望を持ってもらうことで次の福島市を担う人材育成に取り組んでいくことの必要性、若い世代の市民に古関氏の功績や楽曲を伝え、語り継いでいくことで福島市に愛着や誇りを持ってもらう取組を伝え続けることの必要性について認識したところであります。

次に、視察により提言に関して得られた内容です。視察先の概要の説明ではなく、提言に結びついた事項について記載をしております。

案文は、隣の７ページになります。案文を読み上げます。次に、先進地の視察により提言に関して得られた内容について２点申し上げます。

１点目は、音楽文化の浸透には長い時間と長期的なビジョンが必要ということであります。

浜松市では、昭和56年から音楽によるまちづくりに取り組み、40年近く継続することで、市民に音楽文化が根づき、音楽のまちを支える人材が数多く育ち、都市ブランドを形成するまでに至っております。

また、音楽によるまちづくりの方向性、将来像を示した文化振興ビジョンを基にまちづくりに取り組むことで、行政と市民、企業などが共通の目標に向かって進んでおります。

２点目は、テレビドラマ放送で得た資源の活用であります。

恵那市は、連続テレビ小説、半分、青い。放送による効果を次につなげていくため、ドラマ放送終了後もロケセットの一部を譲り受け、それを活用し、観光客の誘客を図っております。

次に、提言についてです。先日ご意見いただいた部分を踏まえ、修正しております。

案文を読み上げます。以上の調査結果を踏まえ、古関裕而氏を生かしたまちづくりをさらに推進させるため、以下３点について提言をいたします。

１点目は、エールレガシーの積極的な活用であります。ＮＨＫとの連携をさらに深め、エールで使用したロケセットや小道具等を譲り受け、駅周辺施設などで展示するなど、放送終了後もエールを生かした観光ＰＲを続け、町なかの回遊性向上につなげるべきであります。

また、現在市ホームページで一部のロケ地情報が公開されておりますが、ロケ地情報を一覧にしたロケ地マップを作成し、観光施設などに配置することで、観光客がロケ地巡りを楽しみやすい環境づくりを図るべきであります。

２点目は、古関裕而記念館を中心とした近隣施設や商工団体、他事業との連携であります。先ほど述べましたとおり、エール放送の反響により、近年例を見ない数の来場者が古関裕而記念館を訪れておりますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、一度に入れる入館者数を制限しております。そのため、混雑時は１時間程度待ち時間が発生しております。

この待ち時間を活用するため、隣接する音楽堂など近隣施設とさらなる連携を図り、施設の空きスペースを活用した展示や軽食などを取れる休憩場所を設置するなど、近隣施設が一体となり、訪れた方へのおもてなしの強化を図るべきであります。

加えて、市当局と商工団体が連携して町なか回遊のための仕組みをつくり、その情報を古関裕而記念館から発信するべきです。

また、旅行代理店等と連携し、本市自慢の花見山や果物狩りツアーと古関裕而記念館をセットにしたパッケージツアーの促進を図るべきであります。

本市では、春は花見山の花観光、初夏からは６月のサクランボを皮切りに、夏のモモ、秋のナシやブドウ、初冬のリンゴなど季節によって様々な果物狩りを楽しむことができ、市内外から多くの方が訪れます。

パッケージツアーとすることで、より多くの方に気軽に古関裕而記念館を訪れる機会を提供することができます。

３点目は、音楽による人材育成と音楽文化の伝承、浸透についてであります。

古関氏の名を冠した作曲や編曲等のコンクールを創設し、市内外の音楽家に幅広く参加していただくことで、本市ゆかりの音楽家として成功するきっかけをつくり、第２、第３の古関氏のような人材

の育成につなげていくべきであります。

氏の名を冠したコンクールとすることで氏の功績を伝承するとともに、10年、20年と継続することで市内外に認知され、古関裕而のまち福島の象徴的な事業となり得るものと考えます。

コンクール参加者がその後国内外で活躍することで、コンクールでの活躍が夢や目標となり、ひいては音楽を通した人材育成につながります。

また、古関氏の功績や古関氏の楽曲を若い世代に伝承することは、日本を代表する偉大な作曲家が本市から生まれたことに対し、本市への誇りや愛着、将来への希望が生まれることから、伝承の機会を増やし、継続していくべきであります。

子供たちに古関氏の功績や音楽を伝承する取組としては、既存の鼓笛パレードや合唱コンクールなどでの古関氏の楽曲の活用や、古関氏の楽曲をジャズやポップスなど様々なジャンルが一堂に会する音楽フェスティバルなどを継続的に開催することで、少しずつ古関氏の楽曲が若い世代に浸透し、伝承されることにつながると考えます。

古関裕而氏を生かしたまちづくりの浸透には、継続的な取組が必要であります。短期的な施策だけではなく、音楽文化の振興を図る長期的なビジョンを持ち、まちづくりの方向性を示すことが重要であります。

最後に、結びについてです。

案文を読み上げます。以上３点の提言をいたしましたが、最後に調査にあたりご協力いただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。

エール放送により、古関氏と本市に対する関心は一気に高まりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、本市に多くの方が訪れ、にぎわいが生まれております。

この盛り上がりを一過性のもので終わらせることなく、古関裕而のまち福島をこれからも市内外へアピールすることが重要であります。

古関裕而氏を生かしたまちづくりにより、本市が50年、100年先まで魅力にあふれ、誇りと愛着を持って住み続けたいと思われるまちとなるよう祈念いたしまして、古関裕而を活かしたにぎわいの創出に関する調査の報告といたします。

説明は以上になります。

（二階堂武文委員長）それでは、ご意見をお伺いいたします。

（山岸　清委員）全体的にまとまっていると思います。ただ、私が気になったのは、この表題文にあるように古関裕而を活かしたと呼び捨てになっているから、そこはどうなのか。古関裕而氏を活かしたにすべきではないかなと。ただ、古関裕而のまちというのは氏入れることないのだよね。ただ、古関裕而を活かしたでなく、やっぱりここは古関裕而氏を活かしたに、氏入れたほうがいいのではないのかい。上品さが。

（二階堂武文委員長）ただいまの点につきましては、大分正副でも議論をしたところでした。書記の

ほうからまとめた見解を説明させます。

（書記）古関氏に氏を入れるかどうかというところは、文化振興課にも確認したのですけれども、固有名詞になっているもの、例えば古関裕而のまち福島とか、そういったものですと氏を入れないのですけれども、今山岸委員がおっしゃったように文言として使うときは古関裕而氏と言ったりします。ただ古関裕而氏と何回も言うと長くなるので、最初の１回目だけを古関裕而氏として、２回目以降出てくるときは古関氏というような呼び方をするなど使い分けをしているようなのですけれども、事業名ですとか固有名詞になっているものに関しましては氏を抜いて、文言で使うときは氏を入れるというような整理をしています。今混在している部分もあると思いますので、そちらにつきましては後ほど整理をさせていただきたいと思います。

以上になります。

（山岸　清委員）そう言われれば分かるような気がするのだけれども、何だかどうかなと思っただけで。古関裕而記念館とか古関裕而のまちとか、こんなのはいいのだけれども。

（川又康彦委員）今回骨子案で出たもののタイトルには氏がないという形で、これまではずっと氏がついていたような気がするのですけれども、これまでの委員会の中でその話があって、これをあえて取ったということでいいですか。

（書記）こちらに関しましては、文書を作成する段階で漏れてしまっている部分ですので、タイトルには氏を入れさせていただきます。申し訳ありません。

（川又康彦委員）タイトルには入るということね。

（二階堂武文委員長）氏で古関裕而をとタイトルとか何かに組み込んであるものはそのまま氏を載せて、そのまま氏で使っているものは使わせていただいてという感じです。私どもが本文の報告のまとめで使うものは古関氏とか古関裕而氏とかという使い方、混在している形になると思います。

（川又康彦委員）多分山岸委員が一番気になったのは、ここに氏がないのだけれども、ここにはもともと入りますよということでいいのですね。

（二階堂武文委員長）ええ。本文中も、先ほど書記のほうで説明してもらいましたが、一部そういったところでちょっと気になるところとかありましたらそれは言っていただいて、まだ完全に整理が完成しているわけでもないものですから、何かお気づきの点があったらお願いします。

（川又康彦委員）提言内容までまとめていただきまして、本当にありがとうございます。１つだけというか、福島市側、当局側でいろいろ頑張っていただいてやった部分をちょっと入れていただいたほうがいいのかなと思ったのが、本文の提言の８ページの旅行代理店と連携してパッケージツアーをやったほうがいいという提言内容についてなのですけれども、今回補正関係でも駐車場の整備を新たに行うという部分で、これをやることでパッケージツアーをより受け入れやすい素地が出来上がったと思うのです。バスの受入れ、また駐車場の受入れ台数という部分も。その部分を一文入れていただけると、当局側を持ち上げるというわけではありませんけれども、当局側もこれだけ、それがあった上

でパッケージツアーがより機会を提供する、一番最後の文章の前辺りで新たに整備される駐車場を活用することでパッケージツアー、その辺の文言の細かいところは微妙ですけれども、その一文入れていただけると非常に当局側に対しても当然それを活用するためにもこれはやらなければならないだろうなという部分につながるのではないかなと感じました。

（二階堂武文委員長）ただいまのところは、８ページの下から２行目の頭のところにということになりますね。新たに整備される駐車場を……

（川又康彦委員）駐車場を活用するためにもとか。

（二階堂武文委員長）よろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（山岸　清委員）あと一つ、今川又さんの指摘された２番目の記念館を中心とした近隣施設や商工団体、他事業との連携というの、これはこれでいいのだけれども、これは本市を中心に考えていると思うのだけれども、やっぱり福島以外の川俣とか本宮とか、あるいは豊橋辺りも。やっぱりいろいろそこらもちょっとほかの、本市は中核市でもあるから、やっぱり川俣、本宮、具体的にはどう入れるかは正副委員長と当局にお願いしたいと思うのだけれども、そういう膨らみ。福島市だけではなくて近隣、川俣のほうが有名でしょう、川俣銀行なんて。東邦銀行にしてもらいたいななんて、ふくしんでもいいのだけれども、川俣銀行で川俣ばかり出てきて、川俣にダンスホールあって、福島にはなかったのかなんて。

（石山波恵委員）いいと思います。ここのところ、ほかの市、今山岸委員がおっしゃったように、川俣、本宮、豊橋、いろいろ関連している部分のところに触れて、ここに付け足すというのはいいことだと思います。

（山岸　清委員）ここらとタイアップしていけば。

（二階堂武文委員長）委員会でも出ておりましたので。

（山岸　清委員）文言はお任せします。

（二階堂武文委員長）分かりました。川俣、本宮、また豊橋との連携を図るというような一文をどこかに。結構時間の経過とともに中のデータも差し替えなくてはならなかったり、提言しているものは一部実現したりしつつありますので、そういう周りの変化もちょっと見ながら、今後手を加えていくことになると思います。

（小松良行委員）要するに囲み枠のところが全部つながっていく形なのですよね。そのような構成になっているということですね。

（二階堂武文委員長）はい。

（石山波恵委員）いいと思います。

（山岸　清委員）いいのでないかい。

（二階堂武文委員長）よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（二階堂武文委員長）皆様からのご意見は以上ということで、そうしますとちょっと確認ではありますが、修正箇所と追加箇所ということで、川又委員からお話がありました新たに整備される駐車場を活用するためにもというような文章、あとは川俣、本宮、豊橋との連携を図るというような一文を中に加えるというようなことで正副の手元で修正案を作らせていただきます。

では、そのように進めさせていただきたいと思います。

最後に、その他になりますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

なければ、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

午前10時23分　　散　　会

経済民生常任委員長　　二階堂　武文